

タンゴとサッカーの国・アルゼンチン



3月26日（土）、大津茂公民館で国際理解出前講座「タンゴとサッカーの国・アルゼンチン」を開催しました。講師は、ご両親の移住により、1歳から結婚されるまでの間アルゼンチン・ブエノスアイレス近郊で過ごされた大谷アリシアさんです。

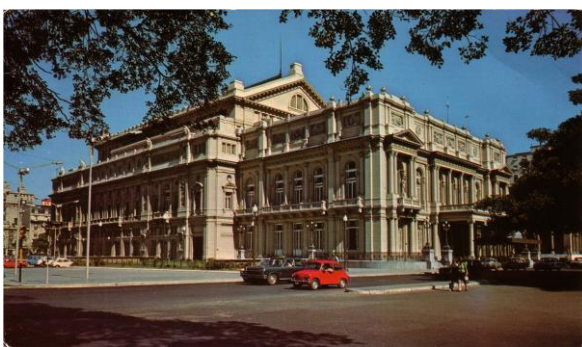
講座は、アルゼンチンの概要から始まり、スペイン語のミニコーナー、熱狂的なサッカーの応援、タンゴの魅力、観光名所、食べ物など多岐にわたる内容でした。“南米のヨーロッパ”と言われるほど、ヨーロッパ風の建物が多くあることや、日本で活躍していたサッカー選手のことなど、皆さん驚きながら、聞き入っておられました。

講座後に参加された方に感想をお聞きすると、アルゼンチンの元の意味が「銀」であること、スペイン語だと気付かずに使っているスペイン語が意外にたくさんあることなど、インターネットやテレビなどでは知ることができないような内容がたくさんあって、おもしろかったと仰っていました。

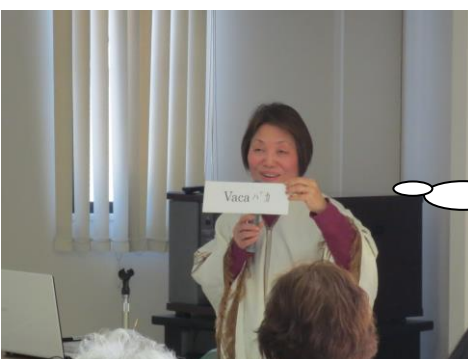
また、何人かの熱心な受講者の方は、終了後も講師に様々な質問をして理解を深めておられました。



「飲むサラダ」と呼ばれるマテ茶を飲む器。



<南米一と言われるオペラハウス>



スペイン語で、牛のことはVACA（バカ）と言うそう。「アルゼンチンには、VACAがたくさんいます。」というジョークに笑いがおきていました。